2026 年度

研究分野	授業科目名	科目責任者
生化学系分野	血球生化学特論Ⅰ・Ⅲ	近藤　英生

開講年次	共通／専攻／選択	単位数	
1,2,3,4	特論Ⅰ：必須専攻, 特論Ⅲ：選択	特論Ⅰ：4（2/年）, 特論Ⅲ：1/年	

目的

（1）血液学，血液腫瘍学の新しい話題を認識し，理解する。
（2）新知見を理解し自らの研究に活かし，より質の高い研究にする。

授業到達目標

（1）研究論文の構成について説明できる。
（2）研究論文を正しく理解し，客観的評価ができる。
（3）臨床での疑問点に対して，仮説を立て，それを実証するための研究計画が作成できる。
（4）血液学，血液腫瘍学の各領域の新しい話題を理解でき，自身の研究に応用できる事項を説明できる。

授業計画

回数	月日	曜日	時間	担当者	区分 1	区分 2	授業内容
1	毎週	金	17:00-18:00	近藤　英生	講義	[抄読会]	血液学，血液腫瘍学の英文論文を紹介し，それに対する考察・討議を展開する。 [場所:本館棟７階カンファレンス室３]
2	隔週	火	8:15-9:15	近藤　英生	講義	[研究検討会]	研究の進捗状況を題材に演習する。 [場所:本館棟７階カンファレンス室２]

評価方法

【特論Ⅰ】
（1）１年間※で 30 時間出席し，科目責任者から履修手帳に出席印をもらい，提出する。
（2）１年間※で，論文紹介または症例発表を２回行い，その要約２編を提出する。
【特論Ⅲ】
（1）１年間※で 15 時間出席し，科目責任者から履修手帳に出席印をもらい，提出する。
（2）１年間※で，論文紹介または症例発表を２回行い，その要約２編を提出する。
ただし，特論Ⅰ・Ⅱで紹介したものとは異なる論文（症例）であること。
特論ⅠとⅢの同年度での重複受講は不可とする。
※１～３年生は２月末まで，４年生は 11 月末までの講義を当該年度の単位認定の対象とする。

課題（レポート等）に対するフィードバック

（1）論文紹介については，その要約を前もって作成し，20 分間で発表する。その後，20 分間教室員全員で討議を行い，質問に適宜答える。
（2）要約については，添削後返却する。

教科書

ISBN-9784489020735，医療系研究論文の読み方･まとめ方-論文の PECO から正しい統計的判断まで，対馬栄輝，東京図書，2010

参考書

ISBN-9784062575843，理系のための口頭発表術 ： 聴衆を魅了する 20 の原則，ロバート・R・H・アンホルト（著）・鈴木炎・イイイン・サンディ・リー（訳），講談社，2008

準備学習（予習・復習等）

（1）自らが紹介する Journal は指定しないが，以下の Journal が望ましい。
『BLOOD, The New England Journal of Medicine, Cell, Nature Genetics, Science, Cancer cell, The Lancet Oncology, Journal of Clinical Oncology, Leukemia, Cancer Research』
また関連する参考論文もあわせて紹介し，自らの見解を述べること。
（2）血液領域の top journal である『BLOOD』の abstract だけは，毎号目を通し，この分野における世界の状況を日々把握しておくこと。
準備学習に必要な時間（60 分）

修了認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

課題を探求し，仮説立脚，検証に至までの科学的方法・思考法を知悉する。

注意事項・メッセージ

自身の研究に応用できるアイデア，実験方法，解析方法を見出してください。